

黒部市歴史民俗資料館 第13回特別展「黒部川の洪水・治水のあゆみ」紹介 No.1

黒部市歴史民俗資料館において、黒部川における洪水と、それにかかわる治水の歴史を紹介します。

黒部川は、急流河川である為に、流域の住民は洪水の被害を受け苦しんできました。明治16(1883)年5月に石川県から富山県が分県する要因の一つとして急流河川の治水に対する政策の相違がありました。

昭和9年の洪水被害が、国の直轄河川となる運動のおおきなきっかけとなり、また、昭和44年の大洪水が宇奈月ダム建設のきっかけとなりました。黒部川の治水に様々な取り組みを試み、現在も治水や水制などの工夫が継続されています。

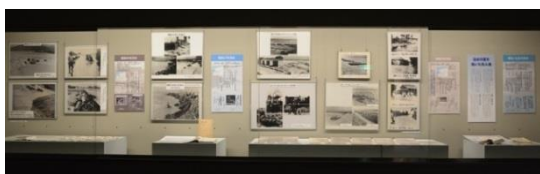
展示では、昭和9年、27年、44年の洪水、治水事業（各種の水制）、川への畏敬（水神）を紹介します。



(黒部市歴史民俗資料館前の看板)



(展示室 洪水年表)



(展示室 昭和9年、27年、44年の洪水)



(展示室 治水事業)



(展示室 川への畏敬)